

## ◆出土品◆

発掘調査ではさまざま遺物が出土し、15世紀末から16世紀初頭に近い前半という年代が得られました。

出土品には輸入陶磁器（染付・白磁・青磁・褐釉）、国産陶器（瀬戸美濃・常滑）、在地土器（かわらけ・火鉢）、石製品（硯・砥石・石臼）、銭貨、釘、錘、鍛冶滓、壁土、炭化財などがありました。



### 火鉢

かわらけの次に出土量が多く、威信財のひとつと思われます。



### かわらけ

出土した遺物の大半を占めたのが素焼きの皿・かわらけでした。かわらけはハレの器として正式の宴などで1回きりで使われたものです。



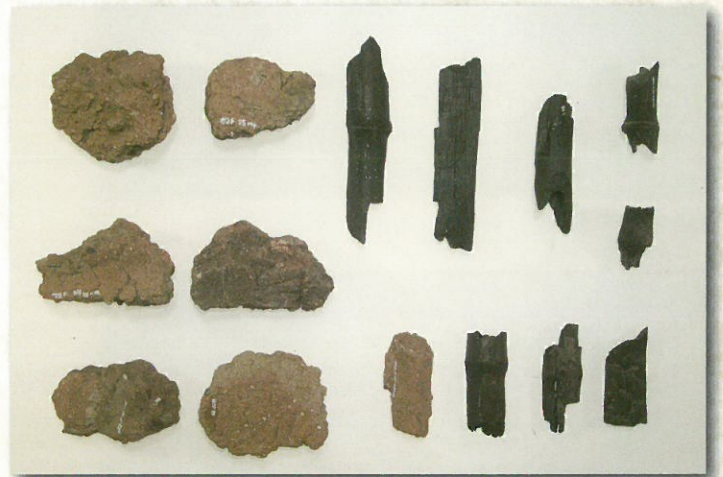
### 硯と錘、砥石

# 杉山城跡

比企郡城館跡群



### 染付皿・白磁皿・青磁碗・褐釉壺



### 焼けた壁土とコマイの炭化竹

本郭からは大量の焼けた壁土とコマイの炭化竹が出土しました。南二の郭・南三の郭からも焼土と炭化物が出土していて、土器なども焼けた痕跡が多くみられました。

このことから杉山城跡は城の広い範囲で火災があった後、廃絶したと思われます。



### 瀬戸美濃窯天目茶碗・すり鉢・小皿、常滑窯甕